

### 平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野こども療育推進事業
事業主体 (連絡先)	長野こども療育推進サークル ゆうテラス 〒399-8288 安曇野市豊科 3100 県立こども病院しろくま図書館内 電話 0263-73-6700 内線 1602
事業区分	② 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,370,371 円 うち助成金 1,027,000 円

#### 事業内容

①情報発信 小児療育情報誌「あしあとてらす」発行の継続と災害対応の学習会を開催した。冊子は毎号 1000 部作成、県内市町村・在宅療養支援病院・訪問看護ステーション・重心児を受け入れている福祉事業所等に配布した。今年度は特に、県の小児等在宅医療連携拠点事業の取り組みを広報することで、県と各圏域の取り組みの連携が進んだ。また、取材のために長野県全域に情報収集・発信に訪問することで圏域ごと、職域ごとのニーズの把握もできた。学習会では、安曇野市の住民支え合いマップを紹介し、自助努力が互助・共助つながることを共有できた。

②地域母子保健サポートシステム こども病院新生児科と地域母子保健の担い手とをつなぐツールを創り、顔の見える関係を創るための説明会を開催した。

#### 事業効果

①情報発信：情報誌により、県や他圏域の取り組みが伝わることで、これまで重症心身障害児者の地域生活支援について手薄だった圏域でも重症心身コンダクターチームを創ろう、という動きが出始めた(3 圏域)。すでにコンダクターチームがある圏域でもチームの活性化、活動の具体化ができた。

学習会では民生委員・社協といった、地域の共助のキーパーソンに、在宅で医療を受けている「こども」がいることを視野に入れてもらうことができた。また、患者家族にも具体的な自助の方法が見えた。

②地域母子保健とこども病院の連携の仕組みづくり：保健師さんたちの不安解消のみならず、こども病院にとっても、地域母子保健の現状や地域に帰った NICU 卒業児の姿が見えて、有効な連携関係構築のきっかけをつくれた。

#### 今後の取り組み

○「小児在宅療育情報誌」として定着した「あしあとてらす」を継続して発行していく

○信州母子保健推進センターの事に吸収・活用していただけるように、できた連携と退院支援の仕組みを可視化した。

○小児在宅療育については「長野県モデル」が先進的、との評価を得ている。今後はその推進に市民レベルで協力を続ける。



災害時個別対応マニュアルを作成した

#### 【目標・ねらい】

- ①情報収集と発信による多職種相互理解・連携の促進
- ②小児在宅療育中についての啓発
- ③災害への具体的な備えを進める
- ④高度医療機関と地域母子保健の連携をつくる

#### ※自己評価【 A 】

【理由】小児在宅療育・重症心身障害児の地域生活について、支援者の多職種ネットワークが広がり、高度医療機関から地域生活への移行の流れも可視化できた。これらは、信州母子保健推進センターの礎として利用していただけたと思う。

また、自立支援協議会療育部会でも、重心・要医療的ケア児者のための部会の必要性を、この活動の実績をもって提言できた。